

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「自分をのびし 友達と認め合いながら 地域とともに歩む」
 ○主体的に考え、意欲的に学び続ける力を育みます。【知】
 ○自分を大切にし自分を律する態度と人を思いやる優しさを育みます。【徳】
 ○体力づくりを通じ、心身ともにたくましく生きる力を育みます。【体】
 ○地域や社会のために、まわりの人と協働する力を育みます。【公】
 ○自分をつつめ、多様性を尊重し、共に生きていく力を育みます。【開】

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

自分づくりに関する力

具体化した資質・能力

自分の思いや考えを言葉にして伝える力
 主体性・積極性の向上 社会生活の中でそれらを生かせる力

中期取組目標

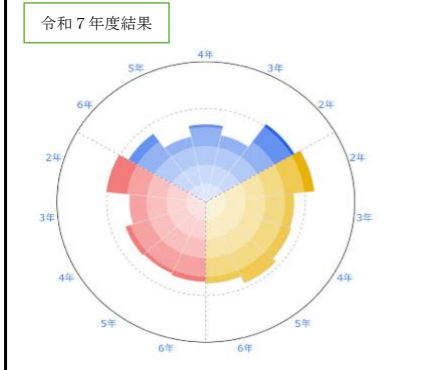
○アンケートの結果をデータ分析し、子どもたちの現状を捉え直し、より有効な資質・能力を身につけていくことのできる教育活動を推進します。
 ○子どもが自分や友達のよさを認め合い、自尊感情を高めることのできるように、子どもの思いを受け止めた指導や支援をします。
 ○ひと・まち・自然等との関わりを深める多様な活動を推進することで自己有用感をもてるようにし、子どものコミュニケーション力を高めます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
自発的・主体的に行動できる力	①子どもが獲得した知識を活用できるよう、知識の定着を目指す授業展開を行う。同時に、獲得した知識や技能を次の活動につなげていく年間計画を立てる。②昨年度の重点研究で「自発的・主体的に行動できる子どもの育成」を掲げて取り組んだ。子どもたちの得た経験をさらに生かすために、子どもたちの興味・関心をより高め、授業に意欲的に取り組めるようにする。
担当	重点研究会

学力向上に関わる本校の状況

(1) 学力にかかわる児童の実態
 学力は、横浜市の平均と比べて全体的に下回っている。生活意識・学習意識は、ばらつきはあるが、前年度を上回り、横浜市の平均に近づいている。学校全体で共通認識のもと、主体的に学んでいける学習環境を整えていく。



(2) 問題解決的な学習を通して、学びに向かう姿(主体性・協働性・追究性)を育むために生活科、総合的な学習の時間に絞って取り組んだ。「人とかがわり」、「問題解決的な活動を繰り返していく」単元構想を練ることで、自ら考え、行動する子どもを育てていこうとした。また、研究を通して、活動と主体性がどのようにつながっているのか、次の活動へのつなげ方、教師と子どものずれについて、課題として挙げられた。

今年度の目標

人とかかわりやこどもたちの「やってみよう」を大切に「生活科や総合的な学習の時間の単元構想づくり」に取り組む中で、「考え、行動し、かがわり合う」といった主体的に行動できる子どもの育成を目指す。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
<p>低学年「まわりに興味・関心をもつ」 友達だけでなく、地域の人たちにも子どもが自ら進んであいさつすることで身近な人の存在に気付くようにする。学習全般を通して、「ひと・もの・こと」の関わりの中で、自分の思いや考えをもつことのできる場を位置づけ支援する。</p> <p>中学年「人とかかわりを楽しむ」 体験的な活動や人とかかわる場面を設定し、共に学ぶことの楽しさを実感できるようにする。</p> <p>高学年「意思決定」 各教科の単元計画を児童とともに考え、児童が見通しをもって活動を進めていくことで、意思決定を繰り返すようにする。授業のふり返りやグループでの話し合い活動や、友達の考えを参考にしながら、自分の立場や考えを明確にできるようにする。</p> <p>個別支援学級「望ましいコミュニケーション」 あいさつや、友達への言葉のかけ方などを日常的に指導することで、基礎的なコミュニケーション能力を高める。</p>	<p>低学年「失敗してもくじけない」 失敗や心配を経験し、それを乗り越え、解決方法を子どもが導き出していけるように、積極的に身近な人との関わりを深めていけるようにする。</p> <p>中学年「思いや考えを伝え合う」 材の設定や単元構想を工夫することで活動を楽しみ、意欲的に思いを伝えようとする。学習や生活の中で多様な考え方や思いに触れることで、自分なりの考えをもつことのできるようになる。</p> <p>高学年「交流し高め合う」 自分の考えを友達に伝える時間を設け、学び方の自己調整をしたり、考えを深めたりできるようにする。</p> <p>個別支援学級「自分の考えをもつ」 ○子どもたちの思いを取り入れた体験的な学習を計画することで、「もっと知りたい」「やってみよう」という気持ちで学習に取り組めるようにする。</p>

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①互いに認め合える温かい学級風土づくりを目指し、YPアセスメントや横浜プログラムの活用を図る。②命の大切さにふれる学習を充実させることで、自分や周りの人を大切にしようとする気持ちを育む。③進んであいさつをすることや互いに認め合える関係づくりの取組を子ども主体で計画する。
担当	人権・児童指導部

豊かな心に関わる本校の状況

・下学年の児童に対し、優しい気持ちで接することができる。
 ・教師の声掛けにより、友達のよさに気付いたり目を向けたりすることができる。
 ・深く考えず発した言葉で、相手を傷つけることがある。また、相手の思いを受け止められない児童も見受けられる。
 ・人権やいじめ防止について、具体的に考える場面が少ない。
 ・打たれ弱く、簡単にあきらめてしまう児童が見られるが、やるべきことや役割が明確なことについては積極的に取り組むことができる。
 ・自分の思いや考えをもつても、言葉にして伝えることや、行動に移すことのできる児童が増えている。
 ・地域や学校内で、進んで挨拶をする児童が少ない。

今年度の目標

互いに認め合い、自分も相手も大事にする学校にしよう

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活についてのアンケート等を通じ、家庭や地域における子どもの実態を把握し、日々の指導に生かす。 ・各クラスでいじめの定義を確認したり、いじめをなくす取組について話し合ったりすることで、児童の意識を高める。 ・校内人権研修を実施し、教職員の人権意識の向上に努める。 ・1回目のYPアセスメントを実施し児童の実態を把握する。温かい学級風土を目指し、クラスに合った横浜プログラムに取り組む。 ・たてわり活動を通して、異学年と交流し関わりを築く。 ・年間指導計画を活用し、学校行事や各教科等、豊かな体験との関連を図った道徳科の指導を行う。 ・生活科や社会科などで、地域と連携した体験的な活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・たてわり活動を継続し、異学年との関りを深める。 ・子ども会議や児童計画情報委員会の話し合いを生かした、いじめ防止に関する取組を計画・実施する。 ・児童が進んでができるようなあいさつ運動の取組を工夫し、心地よい関係づくりに取り組む。 ・2回目のYPアセスメントを実施し、学級の様子の変化をとらえ、実態に合った横浜プログラムに取り組む。 ・人権週間の取組である命の大切さを学ぶ機会を継続し、自分は大切な存在であることや、周りの人も同じように大切な存在であることを実感できるようにする。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①体育の授業や運動委員会の児童の活動を通して、年間を通して様々な運動に親しむ環境を整え、子どもが主体的に体力向上を図れるようにする。②食育部を中心に、給食目標や給食週間を設定し、好き嫌なく食べることを習慣を身に付けたり、子どもが食の大切さを考えるための取組をしたりしながら実施する。③子どもがデータから自分や学校の状況を理解することで、主体的に健康な生活を実践できるようにする。
担当	体育部・食育部

健やかな体に関わる本校の状況

1) 生活・運動の実態
 本校区では、バスケットボールやサッカーなどの地域スポーツクラブが盛んで、所属している児童が多い。そのため、市の平均と比べても、日常的に十分な運動時間を確保できている児童が多い傾向にある。また、休み時間には校庭で元気よく体を動かして遊ぶ児童が多く見られる。さらに、地域に多くの公園が整備されていることから、放課後も外遊びをして過ごす児童が多い。
 生活習慣については、朝食を欠食したり、十分な睡眠をとれていなかったりする児童の割合は、市の平均と比べて低い。
 (2) 体力の概要と要因の分析
 (全校配付の体力・運動能力調査分析チャートを活用)
 令和7年度の新体力テストの結果では、20mシャトルラン、反復横跳び、ボール投げ、握力において、市の平均を上回る結果が見られた。特に20mシャトルランについては、これまで外遊びを積極的に行うよう取り組んできたことが、持久力の向上という形で成果として表れていると考えられる。一方で、長座体前屈に代表される柔軟性については、横浜市の平均を大きく下回る結果となっており、今後の課題として改善に向けた取組が必要である。

今年度の目標

外遊びや運動への意欲を維持し、日常的な運動習慣を定着を目指す。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
<ul style="list-style-type: none"> ○休み時間や体育の学習を通して、児童が進んで体を動かす機会を確保し、外遊びや運動への意欲を維持するとともに、日常的な運動習慣の定着を図る。運動委員会主催の集会を企画し、児童が進んで体力向上、運動意欲の向上を目指す取り組みを行う。 ○体育授業における柔軟性を意識した学習づくり 準備運動・整理運動の中に、柔軟性を高める運動を意図的に位置付ける。 マット運動、器械運動、表現運動など、体を大きく動かす学習と関連付けて指導する。 動きの前で体の変化を感じ取らせ、「伸びた」「楽になった」などの気付きを大切にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体育授業における柔軟性を意識した学習づくり 慣れの運動を充実させ、柔軟性を高める運動を意図的に行う。 動きの前で体の変化を感じ取らせ、「伸びた」「楽になった」などの気付きを大切にする。 ○運動委員会主催の集会の充実 児童運動委員会を中心となって、体力づくりや外遊びの習慣づけを目指した集会を行う。具体的には、ドッジボール集会や鬼ごっこ集会、シャトルラン集会などを行い、楽しみながら体力を高める活動を行う。